

# 実践例「学習指導の深化・充実」

「課題5 学習意欲の向上や個々に最適な学びを重視した指導方法の改善・充実を図る」

## I 学校名 ニセコ町立近藤小学校【後志管内】



## II 研究の概要

### 1 研究テーマ

主体的・協働的に学び 深め合う子の育成  
～ICTを活用し、児童が主体的に進める学習を目指して～

### 2 研究の概要

#### ア テーマを具現化するために

仮説（検証内容）を3つ設定し、日々実践することにより、児童の学習意欲や理解度が上がり、職員の日々の授業の質が上がっていくことを想定した。

#### ① ICTの活用

- ・ICTを活用することで児童の学習意欲や理解度が上がるのではないかな。

（例）書画カメラの使い方、chromebookの使い方、スタディサプリやロイロノート等学習アプリの使い方 等

#### ②全校揃えた指導

- ・全校揃えた指導をすることで、児童の学習意欲や理解度が上がるのではないかな。

（例）机上に載せるもの、学習のすすめ方、板書の書き方、振り返りの観点の統一 等

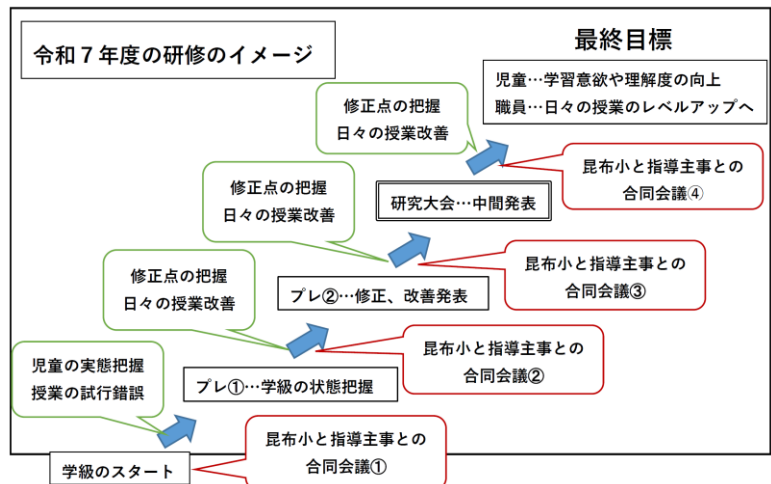
#### ③児童が主体的に進める学習

- ・児童が主体的に進める学習をすることで、児童の学習意欲や理解度が上がるのではないかな。

（例）学習リーダーが主になって学習を進める、問題解決の方法を児童が選択する、児童の言葉を使って課題やまとめを作る 等

#### イ 研究方法に関すること

今年度は、交流授業を数回繰り返すことによって、共に高まり合う研修に重点を置いた。北海道教育庁後志教育局に指導助言をいただくとともに、研究協力校と実践交流を図ることで職員の指導力向上に努め、校内研で数回授業を公開しあった後、研究大会当日を迎えた。今年度の研修のイメージ図は右のとおりである。



### Ⅲ 実践例

- 1 大会名 令和7年度 後志へき地・複式教育研究連盟研究大会ニセコ大会
- 2 主催 後志へき地・複式教育研究連盟
- 3 主管 ニセコ町へき地複式教育研究会
- 4 期日 令和7年12月5日(金)
- 5 会場 ニセコ町立近藤小学校
- 6 指導案 ※一部 板書型指導案

#### 【4年生】

1. p.28【問題2】をノートに書く。  
書き終わったら、本時求める内容を、確認する。
2. 前時をふりかえる。(縦と横の関係を表や式、グラフに表すことができた。)
3. 本時の問題も、表や式で表すことができるのか？  
⇒課題設定
4. 表を完成させる。

12/5 (金) 変わり方

④ 1辺が1cmの正方形の厚紙をならべていきます。  
だんの数が10だんときの周りの長さは何cmになるでしょう。

⑤ 10段のときの周りの長さを(計算で)求めるための式を考えよう。

⑥ 表を横に見て、だんの数が1ふえると...  
1はよる1はよる1はよる  

1	2	3	4
4	8	12	16

⑦ 表を横に見て、だんの数が2倍になると...  
2倍  

1	2	3	4
4	8	12	16

⑧ 表をたてに見て...  

1	2	3	4
4	8	12	16

  
 $1 \times \square = 4$     $2 \times \square = 8$     $3 \times \square = 12$     $4 \times \square = 16$

だんの数を○だん、周りの長さを△として、○と△の関係を式で表すと...  
**だんの数 × 4 = 周りの長さ**  
 $\bigcirc \times 4 = \Delta$

⑨ (表をたてに見ると、式を立てることができる。)

5. 完成させた表をもとに、だんの数と周りの長さの関係について調べてみる。(縦の関係に気づけない児童には、支援する。)
6. 交流する。  
【評価】  
伴って変わる2つの数量関係に気づき、式に表すことができる。(ノート・発表)
7. 本時のまとめ・ふりかえりをする。
8. たしかめ2にとりくむ。

#### ○本時の目標 (ねらい)

- ・伴って変わる2つの数量の関係を表に表し、変化の特徴を調べることができる。また、その関係を式に表すことができる。(y=axの関係)
- ※ふりかえりで書かせたい内容例：だんの数と周りの長さを表に表すと、2つの関係を式で表しやすい。横だけではなく、たての関係も調べると式にできる。
- 指導の留意点や準備物・掲示物等
- ・実物投影机

#### 【5年生】

1. 平行四辺形の求め方をふりかえる。  
二面積の求め方が分かる図形に変形すれば求めることができた。
2. 問題提示  
三角形はどうやって求める？
3. 予想  
三角形も変形すれば求められるのでは？

12/5 (金) 四角形や三角形の面積

平行四辺形の面積は、どのようにして求めた？  
→面積の求め方が分かる図形に変形すれば求めることができた。

⑩ 三角形も変形すれば求められるのでは？

⑪ 三角形の面積の求め方を考えよう。

⑫ 三角形の面積は、長方形や平行四辺形のたちに変形すると、求めることができる。

4. 自力解決  
どんな図形に変形できるかな？  
・教科書QRを読み込んで取り組む。  
・紙に書いて取り組む。  
・ロイロノートに貼る。
5. 交流する。  
【評価】  
三角形の面積の求め方を、長方形や平行四辺形の面積の求め方をもとに考えることができている。  
(ノート・発表)
6. 本時のまとめ・ふりかえりをする。

#### ○本時の目標 (ねらい)

- ・三角形の面積の求め方を理解する。
- ※ふりかえりで書かせたい内容例：三角形の面積も、求め方が分かる形に変形すれば求めることができる。
- 指導の留意点や準備物・掲示物等
- ・ロイロノートの提出箱
- ・黒板掲示用教材
- ・自力解決用三角形の紙

## 【6年生】

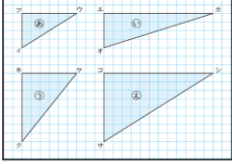
1. 大きさは違っても同じ形に見える形に関心を持つ。
2. 問題提示。
3. 課題を考える。どんな共通点があるのか。
4. 見直しを持つ。

12月5日(金) P171

同じ比率・違う比率  
にしたイラスト

①横に長い  
②縦に長い  
③同じように見える。

問 大きくしたり、小さくしたりした形は形が同じだと言えるのだろうか？



あとえが同じ？

見 辺の長さ、角の大きさ、比  
①ます目 ②分度器 ③定規

課 形が同じで大きさがちがうものには、どんなきまりがあるか調べよう。

ま 辺→対応する辺の長さが2倍(等しい)  
角→対応する角の大きさが等しい。  
※子供達の言葉で書く。

★ 拡大図…対応する辺の長さの比や角の大きさがそれぞれ等しくなるように元の図を大きくした図。  
縮 図…同じようにして小さくした図。

振り返り

5. 自力解決する。  
(一人で、友達と、先生と)
- ※紙またはロイロノートで
- 【評価】  
既習事項を元に、辺や角について自分の言葉で説明している。  
(ノート、発言)
6. 児童の言葉でまとめる。
7. 指導事項の確認。
8. 振り返り

### ○本時の目標(ねらい)

- ・拡大図、縮図の意味、対応する辺の長さや角の大きさについて理解する。

### ○指導の留意点や準備物・掲示物等

- ・同じ比率、違う比率にしたイラスト
- ・問題の紙ベース、ロイロノートへの問題配信

## 7 研究大会の成果と課題、今後に向けて

### ア 研究協議より

#### ① ICTの活用

##### 【成果】

- ・教科書のQRコードを活用し、図形を変形させることで意欲的に取り組むことができた。
- ・ICTの活用で、互いの考えを交流することができた。
- ・発達段階に応じて、端末の活用技術は高まってきた。



##### 【課題】

- ・ロイロノートを交流時も活用できた方がよかった。思考の整理に使っていたため、児童同士の思考の交流につながったのではないかと。
- ・より効果的な活用の場面を精選する必要がある。

##### 【今後に向けて】

- ・基本的なICT機器の使い方は、児童が確実に身につけておく必要がある。
- ・ICT機器については、教育効果が上がるとされる場面での活用を充実させていく。
- ・ICT機器を活用するには、ニセコ町ICT活用ロードマップを活用し、実態に合った活用方法を模索していく。また、児童の実態に合わせてどんどん内容を更新し、より充実させていく必要がある。

#### ②揃えた指導

##### 【成果】

- ・学習過程(課題・解決・まとめ・振り返り)が揃っており、流れが定着している。
- ・黒板の使い方が統一され、担任が変わっても混乱しないようになっている。

### 【課題】

- ・学習過程や学習規律の共有が見えづらい。また、低学年にどのように提示されているのか。
- ・見通しをどこまで持たせるのか。
- ・振り返りの充実が必要。
- ・単元で育てたい力を意識した指導をする。

### 【今後に向けて】

- ・学習規律や学習の流れについてわかりやすくまとめて掲示し、今後の指導の際にも児童や職員と折に触れて再確認することができる指針にする。
- ・学習の流れについては基本的な流れはできているが、掲示することにより児童に見通しを持たせ、さらなるレベルアップを目指していく。



## ③児童が主体的に進める学習

### 【成果】

- ・学習リーダーを中心に自分たちで学習を進めていこうとする姿が見られた。
- ・子どもたちが集中して課題に取り組んだり、互いに声をかけ合ったりするなど成長が見られた。
- ・自由に交流できる雰囲気がある。
- ・学習リーダーの育成が少しずつ進んでいる。

### 【課題】

- ・互いの考えを聞くだけでなく、見ることができる環境が必要。
- ・課題把握までに時間がかかりすぎている。その日の学習内容から、直接と間接指導の在り方を検討した方がよい。
- ・児童の発言を大切にするために、教師の発言を精選する。学年が上がれば、児童の発言から学習が作られていくことを目指したいところ。

### 【今後に向けて】

- ・効果的な交流方法を模索したり振り返りの観点を明確にしたりすることで、交流場面や振り返りの充実を図る。
- ・児童の発言を大切にし、児童の発言から学習が作られることを目指すため、教師の発言の精選を進める。
- ・児童がより主体的に学習を進めるためには、学習内容や課題を考えた学習計画を児童と作成し、児童自身が学習への見通しを持たせて日々の学習に臨む必要性がある。

## イ 指導助言

- ・4月に授業を参観した時と比べ、児童や教師の成長が見られている。日々の授業を大切にしてきた結果が出ている。児童がどうしてそのように考えたのか過程を説明したり、ノートに自分の考えを整理して書いたりするなど児童が主体的に学習に向かっている姿が見られた。
- ・教師が児童に育てたい力を意識したり、学習計画を児童と作成したりすることで、より児童が主体的に学習に向かうことができるのではないか。